

## 会 議 録

会 議 名 (付属機関等名)		平成 30 年度 第 3 回丹波市文化芸術推進審議会	
事務局 (担当課)		まちづくり部 文化・スポーツ課 芸術文化係	
開 催 日 時		平成 31 年 3 月 29 日 (金) 午後 1 時 30 分～午後 4 時 00 分	
開 催 場 所		丹波市立春日住民センター 大会議室	
出 席 者	委 員	出席委員：角 悟、米村恵子、荻野直貴、藤野一夫、中澤正樹、 廣瀬仁美、吉見順子、林 伸光、三木哲夫、山本浩史、 大地常夫、山内順子、進藤妙子	
	指 導 者	-	
	事 務 局 他	丹波市副市長 鬼頭哲也 まちづくり部 文化・スポーツ課 課長 高見智幸 まちづくり部 文化・スポーツ課 係長 長井 誠 まちづくり部 文化・スポーツ課 主幹 高見辰二 まちづくり部 文化・スポーツ課 機械員 足立 稔 企画総務部 総合政策課 課長 清水徳幸 産業経済部 次長 兼 恐竜・観光振興課 課長 細見秀和 教育部 文化財課 課長 長奥喜和 神戸大学 大学院生・大学生	
傍聴の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由		0 名	
会 議 次 第		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 会長あいさつ</li> <li>3 説明・協議事項               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 市民等へのアンケート調査報告 (案) について</li> <li>(2) 施策体系表について</li> <li>(3) 丹波市生涯学習整備方針 (適正配置計画) について</li> </ol> </li> <li>4 今後の予定について</li> <li>5 その他</li> <li>6 閉会</li> </ol>	
会 議 結 果		審議経過のとおり	

## 会 議 要 旨 （ 審 議 経 過 ）

事務局 (係長)	<p><b>1 開会</b></p> <p>皆さん、こんにちは。文化・スポーツ課の〇〇です。</p> <p>今日は、ご多忙の中、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>まだお越しになられていない2名の委員様につきましては、ご欠席の連絡をいただいておりますので、追ってご出席いただけるものと思います。</p> <p>それでは、定刻になりましたので、ただ今から、平成30年度の第3回丹波市文化芸術推進審議会を開会させていただきます。</p> <p>開会にあたりまして、丹波市副市長よりごあいさつを申し上げます。</p>
副市長	<p>皆さん、こんにちは。丹波市副市長の〇〇でございます。</p> <p>今日は、平成30年度末が押し詰まり、それぞれ大変お忙しい中、第3回の丹波市文化芸術推進審議会にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。</p> <p>今日は、たいへん温かい日ではありますが、すぐ傍の黒井川沿いでは、かなり桜の蕾が膨らんでおります。もし、この会議を一週間後に開催していれば、桜が咲いた綺麗な景色をご覧いただけたのではないかと考えております。</p> <p>さて、今日は、市民等へのアンケート調査の結果をご説明させていただきますので、これから皆さまにお世話になる丹波市文化芸術推進基本計画の策定にあたっての参考にしていただきたいと思います。</p> <p>いよいよ、これからご審議いただく計画を作っていくわけですが、初めて策定する計画の中で、「何を売りにするのか」「どのように丹波市らしさを計画の基本コンセプトに盛り込んでいくのか」について、事務局の内部においても協議を重ねています。</p> <p>そのひとつとして考えられるのは、これまでの文化や芸術は、どちらかと言えば、「先人によって生まれ・育まれてきたものを守っていく」「さらに多くの人々に理解していただき広めていく」、あるいは「未来に繋げて伝承していく」というが主な活動でした。そのような活動も重要ですが、「文化や芸術を丹波市の重要な資源として捉え、これを地域経済や地域活性化、あるいは観光にも活用していく」という視点が必要なのではないかと考えています。</p> <p>もうひとつは、「子どもたちの育成」です。たとえば、「感受性や感性」「感動する心」、あるいは「優しさ等に文化芸術が活かされていく、活かしていく」という視点です。</p> <p>いずれにしても、「文化芸術を活用していくことを、少し強めに打ち出すことが重要ではないか」と、事務局の内部で話しているところでございます。</p> <p>そのような内容・考え方を少し盛り込んだ形で施策体系案をお示しさせていただきますので、皆さまの忌憚のないご意見をいただき、素晴らしい丹波市の文化芸術推進基本計画にしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます、冒頭のごあいさつとさせていただきます。</p> <p>今日は、よろしくお願いいたします。</p>
事務局 (係長)	<p>ありがとうございました。</p> <p>はじめに、本審議会は、公開で開催しております。</p>

なお、本日は、傍聴者・記者の方のご出席はありません。

それではここで、委員以外の方の出席について、ご説明をさせていただきます。

本審議会設置条例の第6条第4項、「会議において必要があると認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴き、説明を求めることができる」の規定に基づきまして、

- ・「神戸大学の大学院生・大学生」
- ・「副市長」
- ・「関係する市職員」

が出席させていただいておりますことを、ご了承のほど、よろしく願いいたします。

次に、注意事項ですが、この会議は会議録調整のため、録音をさせていただきます。会議でのご発言の際は、ご指名のあと、お近くのマイクをご使用いただき、最初にお名前を述べていただいてから、ご発言をお願いします。

次に、資料の確認をさせていただきます。

- ・「会議次第」
- ・「丹波市文化芸術推進基本計画に係る施策体系図（まとめ）」
- ・「丹波市の文化芸術に係るアンケート調査報告書（案）」

この「施策体系図（まとめ）」と「アンケート調査報告書（案）」につきましては、過日に委員のみなさまへ郵送させていただいているものでございます。

本日、ご持参いただいておりますでしょうか。お持ちいただけてない委員様につきましては、後ほどご用意させていただきます。

- ・「丹波市生涯学習施設整備方針（適正配置計画）」
- ・「第2回審議会 会議録」
- ・今年度後半に開催しております「文化ホール自主事業の公演チラシ」

でございます。

それぞれ、お手元でございますでしょうか。

## 2 会長あいさつ

事務局  
(係長)

それでは、お手元の会議次第の2番、〇〇会長よりごあいさつを頂戴します。  
会長、よろしく願いいたします。

会長

皆さん、こんにちは。

年度末のお忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

先ほど、〇〇副市長のご挨拶にもありましたとおり、私も桜の花を期待していましたが、少し早かったようです。

さて、今回、かなり大々的に市民アンケートを実施していただいて、最も実感したのは、特に30歳代の「子育て世代」と言われている方々のパワーに圧倒されたことです。その方々が、「いかに文化芸術に対して大きな期待を抱いているのか」「将来を担う子どもたちの感性をいかに育ていくのか」、あるいは「親子で文化芸術に触れることで家庭内の世代を越えたコミュニケーションをどれだけ熱望しているのか」、そのような強い思いを感じ取ることができました。逆に言えば、そこに不満を抱いているということになります。現況においては、「そこが手厚くない」「充分ではない」という思いがあり、そこに非常に大きな期待をしているという結果がはっきりと現れていますので、後ほどの分析で説明していただきたいと思います。

少しデータ的なこととお話しますと、私は地域の文化振興に関わる仕事をさせていただいており、様々なまちを訪れます。その際に、フィールドワークでの実感とそれを裏付けるような統計的な資料を見比べます。

たとえば、皆さんは、兵庫県の人口をご存知でしょうか。兵庫県は、面積が大きな県であり、現在の人口は550万人を超えています。ところが、約20年後の2040年には、兵庫県の人口は450万人になり、約20%である100万人が減少すると予測されています。これは兵庫県だけではなく、大都市である大阪府、京都府においても人口が減少します。ただし、関西地方で唯一、20年後に人口がほとんど減少しない県があることをご存知でしょうか。それは、滋賀県です。現在、滋賀県の人口は約130万人ですので、神戸市よりも人口が少ないということになります。しかし、滋賀県は20年後に120万人台の人口をキープするだろうと言われていています。それはなぜなのかということを考えていく必要があると思いますが、滋賀県が「ファミリーで住みたいまち」「選ばれる地域」であるということです。これは、私たちにとって、至近の大きなモデルのひとつになると思います。

もう少し、データ的なお話をさせていただきますが、現在の日本における高齢化率の平均値をご存知でしょうか。地方に行くほど40%に近づく結果となっていますが、全国平均は約30%です。そして、兵庫県も約30%、この丹波市も約30%となっています。問題は、20年後の数値がどうなっているかです。まず、単純に人口で考えると、現在の丹波市の人口は約6万2千人ですが、20年後には4万8千人になります。私は、阪神間で最もブランディングが高い芦屋市にも仕事で関わっていますが、20年後の芦屋市は人口が大きく減少しないと言われていています。しかし、私は統計を見てビックリしました。現時点では、芦屋市の高齢化率は全国平均と大きな差異はないのですが、20年後には40%を超える途轍もなく高い高齢化率になります。丹波市における20年後の高齢化率の予測が37.3%ですので、丹波市よりも芦屋市の高齢化率が高くなるということです。つまり、「セレブな方たちは芦屋市に移り住むことができるが、若い人たちが移り住めるような状況ではない」ということを表しています。たとえば、神戸大学にも地方出身の学生が多くいますが、芦屋市にアパートを借りて住んでいる学生はいません。今、芦屋市が何らかの策を講じなければ、どんどん近隣市との差が生じてしまいます。たとえば、西宮市や明石市では、子育て支援の大きな施策を展開しており、両市ともに2040年の高齢化率は30%強だと予測されています。これに対して、同じ兵庫県の北部に位置する但馬地域では、高齢化率が50%を超える市町が出現してきます。しかし、阪神間の市においても差が生じることになり、セレブと言われる芦屋市では、人口は減らないが高齢化率は40%を超えます。一方、西宮市や明石市では、現在、様々な子育て支援施策を展開しているため、高齢化率は30%強に留まると予測されています。単純に、人口の減少だけではなく、「その地域の中心的な存在として、どのような世代が住み続けていくかという競争状態にある」ということです。グローバルなレベルの都市間競争もありますし、国内での都市間競争もあります。兵庫県内においても都市間競争や地域間競争が過酷になっており、それぞれが有効な施策を展開しなければ、20年後に大きな変化が現れます。当然、「若い人たちに魅力のない地域」、あるいは「子育てが困難な地域」は、はっきりと取り残されていくことになると思います。そのように考えると、文化政策は非常に大きな役割を担っています。「大きな施設を建てればいい」「派手なイベントを実施すればいい」というものではなく、「その地域の文化資源に着目し、その地域に住んでい

	<p>る人にとっては当たり前だと思うものの中に宝物が潜んでいて、それを外部から来た人や若い人たちが再発見し、磨きをかけていく」ということを、かなり積極的にやっていく必要があると思っています。</p> <p>そのような全体的な状況の中、これから1年あまりの期間で丹波市文化芸術推進基本計画を充実したものにしていきたいと思っておりますので、皆さまのご協力をよろしくお願い申し上げます。</p>
事務局 (係長)	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、ここからの進行につきましては、〇〇会長にお願いいたします。</p>
会長	<p><b>3 説明・協議事項</b></p> <p><b>(1) 市民等へのアンケート調査報告（案）について</b></p> <p>それでは、次第の「(1) 市民等へのアンケート調査報告（案）」につきまして、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局 (課長)	<p>文化・スポーツ課長の〇〇と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。</p> <p>約10日前に、たくさんの資料を委員の皆さまへお送りしたことににつきまして、本当に申し訳なく思っております。</p> <p>本日は、できるだけ丁寧にご説明をさせていただきますので、どうかよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、「次第」をご覧ください。</p> <p>まず、<b>アンケート調査の概要</b>をご説明します。</p> <p>「一般市民」につきましては、対象者1,000人に対しまして、回収率が39.4%でした。これは、同時期に未来都市創造部が実施した「丹波市の将来のまちづくりに向けての市民アンケート」と、ほぼ同じ回収率となっております。</p> <p>次に、「新成人」ですが、対象者610人に対しまして、回収率が17.9%と低調な結果でした。これにつきましては、事前にそれぞれの対象者へ送付したアンケート調査票を、成人式当日の会場受付に持参していただく方法で回収しましたが、「対象者は、アンケートどころではなかったのではないか」と思っており、当方といたしましては、回収方法に問題があったと深く反省しております。</p> <p>次に、市内の柏原・氷上・氷上西高校の「高校生」ですが、対象者1,281人に対しまして、回収率が96.6%でした。これにつきましては、各生徒が学校でアンケートに記入し、学校で回収するという方法で実施しましたので、当然の結果だと考えております。</p> <p>次に、「施設来館者」「文化芸術団体」ですが、それぞれ高い回収数・回収率となっております。</p> <p>続きまして、別冊の「丹波市の文化芸術に係るアンケート調査報告書（案）」をご覧ください。</p> <p>すべてをご説明いたしますと、相当な時間を要しますので、ポイントをご説明いたします。</p> <p>なお、アンケートの集計を含め、分析結果等で疑問に思われるところがあると思いますが、委員の皆さまのご指摘を頂き、まとめ上げていきたいと思っておりますので、ど</p>

うぞよろしくお願ひいたします。

まず、2ページと3ページをご覧ください。

このページは、先ほどご説明をいたしました、調査概要のまとめを記載しております。

次に、5ページをご覧ください。

ここから7ページまでは空白となっておりますが、本日の審議会でのご意見を踏まえて、総括をさせていただきたいと考えております。

次に、9ページをご覧ください。

このページから次の10ページは、市民へのアンケートにお答えいただいた方々の「性別」「年齢」「地域」です。それぞれバランス良くご回答をいただいております。

次に、11ページは「居住年数」、13ページは「居住経験」、そして15ページは「職業」となっておりますので、後ほどご覧ください。

次に、16ページをご覧ください。

ここから、**市民へのアンケート調査の結果**をご説明させていただきます。

まず、「問7 あなたは、最近1年間に何らかの文化芸術を鑑賞したり、あるいは文化芸術活動（企画・運営等を含む）をしましたか。」という設問です。

図表の最下欄の「凡例」は、青色が「した」、オレンジ色が「しなかったが興味はある」です。

また、図表の一番上の「全体（N=396）」は、アンケート調査の「回答者数」です。

この場合、何らかの文化芸術を鑑賞、あるいは活動を「した」の割合が57.8%、「しなかったが興味がある」の割合が15.9%ですので、青色とオレンジ色の部分を合計すると73.7%となり、およそ4分の3の方が「した」、あるいは「しなかったが興味がある」という結果になっております。

なお、以降の説明の中で、「図表の全体」と申しあげましたら、グラフや表の一番上の「全体」の行をご覧ください。

また、その下段には、「年齢別」と「地域別」のグラフを掲げておりますが、ほぼ全体の比率と同じような状況です。

次に、裏面の17ページをご覧ください。

まず、上段の「（参考）文化芸術の分野」をご覧ください。

「①音楽」から「⑩地域の祭礼・民族芸能」まで、ご覧のような分野及び内容です。

なお、以降において、どの分野に当てはまるのかが不明な場合は、この17ページの「（参考）文化芸術の分野」をご覧ください。

次に、その下段の図表ですが、それぞれの分野において、青色の「鑑賞」の割合が圧倒的に多く、オレンジ色の「活動」では、最下段の「地域の祭礼・民族芸能」の割合が20.1%で最も多い結果となっております。

次に、25ページをご覧ください。

「問10 あなたが文化芸術を鑑賞しなかった、あるいは活動（企画・運営等を含む）」

をしなかった理由は何ですか。」という設問に対しまして、下段の図表をご覧ください。

図表の全体では、「仕事や家事が忙しく、時間的な余裕がない」の割合が50.0%で最も多く、また、すべての年齢・地域においても最も多い結果となっております。

なお、以降のグラフにおいて、黄色のマーカーをしているところは、「全体」「年齢別」「地域別」のそれぞれにおける「最も多い割合の回答」を表しています。

また、その他では、「金銭的な余裕がない」「鑑賞・活動する仲間やきっかけがない」「魅力的な公演、活動がない」の割合が、20.5%で同率となっております。

次に、隣の26ページをご覧ください。

「問11 あなたは、丹波市を文化芸術の盛んなまちだと思いますか。」という設問に対しまして、まず、下段の図表の全体では「思う」が3.8%、「どちらかといえば思う」が18.2%となっており、その2つを合計しましても22%の非常に少ない割合となっております。

また、赤線で囲んでおりますのは、「子育て世代」の可能性が高く、今回の基本計画策定において重要視すべきと思われる30歳～39歳ですが、「思う」と「どちらかといえば思う」を合計した「文化芸術が盛んだと思う人」の割合は、12.3%の少ない結果となっております。

なお、年齢別の70歳以上では、「文化芸術が盛んだと思う人」の割合が多く、地域別では、柏原地域と市島地域が多い結果となっております。

これは、柏原地域には「丹波の森公苑ホール」、市島地域には「ライフピアいちじま大ホール」があるためではないかと考えております。

次に、裏面の27ページの下図表をご覧ください。

先ほどの「丹波市を文化芸術が盛んなまちだと思うか」の設問に対する回答を比較したのですが、「文化芸術が盛んだと思う人」の割合は「市民」が最も少なく、次いで「新成人」「高校生」の順となっております。

なお、当然のことながら、文化芸術活動をされている「団体」や「施設利用者」については、割合が多くなっております。

次に、隣の28ページをご覧ください。

「問12 文化芸術が盛んだと思う理由は何ですか。」という設問に対しまして、下段の図表の全体では、「市民・団体による文化芸術活動が活発である」の割合が57.5%で最も多く、また、ほぼ全ての年齢・地域においても多い傾向にあります。

次に、34ページをご覧ください。

「問15 あなたは、丹波市の文化芸術に関する情報を、主に何から得ていますか。」の設問に対しまして、全体では「市の広報紙・防災行政無線」が55.8%で最も多い割合となっております。次いで、「チラシ・ポスター」の39.4%、「家族・友人・知人からの口コミ」の29%が多い割合となっております。

なお、ほぼすべての年齢・地域において、「市の広報紙・防災行政無線」が多い割合となっております。

これは、丹波市では、防災行政無線が各戸に配備されており、市民の身近な情報源に

なっていることが要因だと考えられます。

次に、39ページをご覧ください。

「問17 あなたは、日常生活で優れた文化芸術を鑑賞したり、あるいは自ら文化芸術活動を行うことを、大切だと思いますか。」の設問に対しまして、下段の図表の全体では、青色の「思う」の割合40.4%と、オレンジ色の「どちらかといえば思う」の割合35.1%を合計した「文化芸術鑑賞・活動を大切だと思う人」の割合が75.5%となり、全体の4分の3の方が「大切だと思っている」という結果となっています。

多少のばらつきはありますが、すべての年齢・地域においても「文化芸術鑑賞・活動を大切だと思う人」の割合が多くなっています。

次に、隣の40ページをご覧ください。

「問18 あなたが、大切にしたい丹波市の文化的な資源は何ですか。」の設問に対しまして、下段の図表の全体では、「伝統文化（地域の祭り・行事・芸能など）」が56.3%で最も多く、ほぼすべての年齢・地域においても、割合が多くなっております。

その他では、「景観（自然環境・街なみなど）」の50.8%、次いで「文化行事（展覧会・イベントなど）」の43.4%が多い割合となっています。

次に、45ページをご覧ください。

「問20 あなたは今後、「お住まいの地域」の文化的環境を充実させるまちづくりを推進するために、何が重要だと思いますか。」の設問に対しまして、下段の図表の全体では、「子ども・若い世代が文化芸術に親しむ機会」の割合が56.6%で最も多く、ほぼすべての年齢・地域においても、割合が多くなっています。

その他では、「地域の伝統芸能・祭りなどの保存や継承」の42.9%、次いで「歴史的価値のある文化財の保存や活用」の32.8%が多い割合となっています。

本アンケート調査においては、この設問の回答結果が重要なポイントのひとつになるのではないかと考えております。

次に、47ページをご覧ください。

「問21 あなたは、今後、「お住まいの地域」の文化的資源を充実させることにより、どのような効果を期待しますか。」の設問に対しまして、下段の図表の全体では、「子どもが地域で心豊かに成長する」が55.8%で最も割合が多く、また、ほぼすべての年齢・地域においても、割合が多くなっています。

その他では、「市民の生きる楽しみが増える」の48.0%、次いで「市民の交流・社会参加が活発になる」「市民の地域への愛着が高まる」の47.5%が多い割合です。

次に、49ページをご覧ください。

「問22 あなたは、今後、丹波市の文化芸術を推進するために、市が支援するべきだと思うことは何ですか。」の設問に対しまして、下段の図表の全体では、「子ども・若い世代が文化芸術に親しむ機会」の53.3%が最も割合が多く、また、ほぼすべての年齢・地域においても、割合が多くなっています。

特に、年齢別では、子育て世代と思われる「30歳～39歳」において、「子ども・若い



世代が文化芸術に親しむ機会」が64.6%と非常に多い割合になっています。次いで、「市民が文化芸術を鑑賞する機会」の46.7%、「伝統芸能・祭りなどの保存や継承」の33.3%が多い割合となっています。

次に、52ページをご覧ください。

「問24 あなたは、子どもの頃（幼児期）から質の高い文化芸術に触れる機会が必要だと思いますか。」の設問に対しまして、下段の図表の全体では、「思う」が52%、「どちらかといえば思う」が30.6%となっており、その2つを合計した「文化芸術に触れる機会が必要だと思う人」の割合は82.6%となっています。

なお、ほぼすべての年齢・地域においても、多い割合になっています。

次に、裏面の53ページをご覧ください。

「問25 あなたは、丹波市では子どもの文化芸術に触れる機会が充実していると思いますか。」の設問に対しまして、下段の図表の全体では、「思う」が1.8%、「どちらかといえば思う」が14.1%で、その2つを合計しましても、「文化芸術に触れる機会が充実していると思う人」の割合は、わずか15.9%のさみしい結果でした。

このことは、先ほどの52ページで、82.6%の方が「子どもの頃から質の高い文化芸術に触れる機会が必要だと思っている」のに対して、現状では「子どもが文化芸術に触れる機会が充実していない」という結果であり、本アンケート調査においては、この設問の回答結果も重要なポイントのひとつになるのではないかと考えております。

次に、隣の54ページをご覧ください。

「問26 あなたは、次代を担う子どもが文化芸術に親しむために、子育ての過程、どのような取り組みが必要だと思いますか。」の設問に対しまして、下段の図表の全体では、「学校における鑑賞体験の充実（芸術家による公演など）」が59.8%で最も割合が多く、また、すべての年齢・地域においても、多い割合になっています。次いで、「親子や家族と一緒に鑑賞・体験し、感想を話し合える機会の充実」が42.4%、「地域の文化施設における子供向けの鑑賞体験の充実（ホール・美術館など）」が37.9%で割合が多くなっています。

次に、56ページをご覧ください。

「問27 あなたは、子どもが文化芸術に親しむことにより、どのような効果を期待しますか。」の設問に対しまして、下段の図表の全体では、「豊かな感性が生まれる」が80.3%で最も割合が多く、また、すべての年齢・地域においても、多い割合になっています。次いで、「地域の文化を知り、地域に愛着を持つようになる」の55.6%、「コミュニケーション能力が高まる」が46.2%で割合が多くなっています。

次に、裏面の57ページをご覧ください。

ここからは、「子育て支援に関する自由意見」です。

「文化芸術を鑑賞する機会の充実」「文化芸術に係る活動をする機会の充実」が多い結果となっております。

次に、61ページをご覧ください。

ここからは、「文化芸術に関する自由意見」を掲載しております。

「文化芸術に触れる機会の充実」が大事であるという、ご意見が多い結果となっております。

また、非常に参考になるご意見も頂戴しておりますので、後ほど、ご覧いただきたいと思っております。

次に、75ページをご覧ください。

このページは、**新成人へのアンケート調査の結果**で、「丹波市の発展に関する自由意見」です。

図表では、大分類の「3 まちを活性化する」が14件で最も多く、その中の小分類では「人口を増やす」「雇用、働きがいのある仕事、通勤しやすい就職先を増やす」が多い結果となっております。次いで、大分類の「1 店や施設を増やす、つくる」の13件、「10 PRする」の6件が多い結果となっております。

次に、85ページをご覧ください。

このページは、**高校生へのアンケート調査の結果**です。

「問4 あなたは、現在、日常生活「学校でのクラブ活動」「個人での習い事」「友人との集まり」「地域での活動」などにおいて、どのような文化芸術活動に参加していますか。」の設問に対しまして、図表の全体では、「参加していない」の70.3%が最も割合が多い状況です。次いで、「音楽」の13.2%をはじめ、地域の祭礼・民俗芸能、美術、生活文化、舞踊など、非常に割合が少なく、さみしい結果となっております。

これは、スポーツのクラブ活動や進学などの影響により、「興味が文化芸術に向いていない」状況を表していると考えられます。

次に、111ページをご覧ください。

高校生の「丹波市の発展に関する自由意見」です。

これは、先ほどの新成人へのアンケート結果とほぼ同様ですが、特に、大分類の「1 店や施設を増やす」「9 イベントを増やす」が多い結果となっております。

次に、143ページをご覧ください。

**団体へのアンケート調査の結果**です。

「問3 5年前と比べて、貴団体の主な活動状況を選んでください。」の設問に対しまして、「やや活発になった」「5年前とほぼ変わらない」が多い結果となっております。

しかしながら、その下段の「問4 貴団体の近年の文化芸術活動を振り返り、問題や課題があれば選んでください。」の設問に対しましては、「活動を支える人材」が66.7%と非常に割合が多い状況です。

次に、159ページをご覧ください。

**施設利用者へのアンケート調査の結果**です。

「問6 あなたは、丹波市の文化的な魅力は何だと思いますか。」の設問に対しまして、「景観（自然環境・街なみなど）」が56.6%、次いで「伝統文化（地域の祭り・行

	<p>事・芸能など）」が45.3%、「文化施設（ホール・美術館など）」が38.7%となっています。</p> <p>次に、裏面の160ページからは、「施設に関する自由意見」です。 後ほど、ご覧を頂けたら嬉しく思います。</p> <p>このあと、「施策体系表」の説明の中で、このアンケート調査の結果を踏まえた、「現状と課題」、「県・市・団体等の取組（案）」をご説明いたしますので、アンケート調査を含めてのご意見・ご感想・ご指摘等をいただければ、たいへん嬉しく思います。</p> <p>以上でございます。</p>
会長	<p>会議の進行が予定よりも遅れぎみですので、ご意見等は休憩後にまとめて頂戴することにして、続いて、次第の「(2) 施策体系表について」の説明をお願いします。</p>
事務局 (課長)	<p><b>(2) 施策体系表について</b></p> <p>それでは、A 3 横長のホチキス留めの資料「丹波市文化芸術推進基本計画に係る施策体系図（まとめ）案」をご覧ください。</p> <p>この資料は、これまでの審議会における委員様からのご意見や、先ほどのアンケート調査報告（案）を基に、現時点でまとめたものです。</p> <p>このあと、次のページから8ページに渡って、詳細をご説明しますが、まずは、その「まとめ」となる最初のページにつきまして、ご説明をさせていただきます。</p> <p>まず、「1 本計画のポイント」ですが、“<b>文化芸術は、丹波市の将来を「育み」「支え」発展に繋げる</b>” でございます。現時点においては、2つの柱を考えております。</p> <p>まず、1つ目の柱は、</p> <p><b>(1) 子どもたち（乳幼児・児童・生徒）に対する文化芸術に触れる機会の充実を図る。</b></p> <p>これは、“<b>「豊かな感性や情操」「生まれ育った郷土への誇りや愛着」を育むことで、丹波市の将来を支える子どもたちを育てる</b>” ということです。</p> <p>この選定理由につきましては、市民アンケートの間24・間25でご説明したとおり、「子どもの頃から質の高い文化芸術に触れる機会が必要」だと思う人が82.6%に対して、「子どもの文化芸術に触れる機会が充実している」と思っている人が、わずか15.9%であったことによるものです。</p> <p>2つ目の柱は、</p> <p><b>(2) 丹波市の文化的資源を「守る（保存・継承）」という視点を持ちながら、積極的に活用していく。</b></p> <p>これは、“<b>丹波市にある様々な資源（自然・観光等）の一つである「文化的資源を活用」することで、丹波市の将来を「育み」「支え」発展に繋げる</b>” ということです。</p> <p>この選定理由につきましては、市民アンケートの間20でご説明したとおり、「文化的環境を充実させるまちづくりを推進する」ためには、地域の伝統芸能・祭りなどの保存や継承、そして「活用」をすることがまちづくりを推進する上で非常に大切なことではないか、という思いからです。</p> <p>この2つの柱につきましては、あくまで現時点における事務局の案ですので、今回のアンケート調査の結果を踏まえ、今後、委員の皆さまからのご意見を頂戴しながら、修正して参りたいと考えております。</p>

次に、「2 施策体系」です。

ここでは、主体別に分類した「基本目標」について、ご説明をさせていただきます。  
なお、その詳細につきましては、このあと、8ページに渡って、ご説明をさせていただきます。

「基本目標」は、大きく4つに分類しております。

上から

1. 文化芸術の鑑賞・体験ができる機会の充実を図る  
(市民が) 癒される・楽しむ
2. 文化芸術活動が活発に行える環境の整備を行う  
(活動者が) 癒す・刺激する・楽しむ
3. 乳幼児・児童・生徒等に対する文化芸術に触れる機会をさらに進める  
(子どもたちを) 育む
4. 観光・まちづくり等への有機的な連携を進める  
(文化財等を) 活かす

これらの分類は、委員の皆さまから頂戴したご意見を基に、「現状と課題」をまとめ、主体が「誰か」「何か」によって、分類したものでございます。

例えば、3番の主体である「(子どもたち)」は、本来であれば、1番の「(市民)」に含まれるべきかもしれませんが、先ほどの「1 本計画のポイント」で触れましたように、「“子どもたちに対する文化芸術に触れる機会の充実”を大切にしていきたい」という意図を込めまして、3番として別に分類しております

いずれにしても、この4つの分類は、すべて大事なポイントと考えておりますが、その中でも、特に網掛けの部分につきましては、今回の計画のポイントと考えています。

次に、1枚めくっていただいて、1ページをご覧ください。

30分程度の説明になりますので、リラックスをして、お聞きいただきたいと思います。  
施策体系につきましては、非常にゴチャゴチャとした資料でございますが、順にご説明をさせていただきます。

はじめに、この表の一番上の項目からご説明しますので、ご覧ください。

まず、真ん中の列、青字のアルファベットA「現状と課題」からご説明をさせていただきます。この欄は、カッコ書きで記載のとおり、「第1回・第2回審議会」、また、市職員で構成する「庁内検討会議」や「学生」の皆さんのご意見、そして先ほどご説明をさせていただきました「アンケート調査のまとめ」を記載しております。

次に、右端の列、アルファベットB「具体的な取り組み(施策)」です。これも先ほどのA欄と同様に「第1回・第2回の審議会」等のご意見をまとめております。

また、左隣の「実施主体等」には、「誰が取り組むのか」「誰が取り組んでいるのか」を記載しております。

なお、資料の右上の凡例は、◎が「現在のものを拡充」、○が「既に取り組み」、新規は「新たな取り組み」でございまして、「新規拡充」の列にそれぞれ記載しております。

そして、この施策をまとめたものが、アルファベットC列の「基本方針」です。

次に、左から3列目のアルファベットD「10年後の丹波市の姿(10年後を思い浮かべようあるべきか)」、そして、それをまとめたものが、その左隣のアルファベットのE「基本目標」です。

このEの「基本目標」が、先ほど前ページで説明しました「4つの分類」となります。最後に、一番左の列、アルファベットFの「基本理念」は、その下段に記載のとおり、丹波市の文化芸術の「方向性」をご審議頂き、前ページの「まとめ」のとおり、何を柱とすべきかを決定してから、最後に「基本理念」を決定したいと考えております。

本日は、すべてをご説明しますと相当な時間を要しますので、網掛けしておりますA列とB列を中心に、ポイントをご説明させていただきます。

あくまで、「現状と課題」に対する、県・市・各種団体等の現時点における「具体的な取り組み（案）」でございますので、後ほど、ご意見等を頂戴できればと思います。

説明の順序は、青色の矢印で記載しておりますとおり、網掛けのA→B、A→Bの順でご説明をいたします。

また、下線を引いているところを中心にご説明させていただきます。

それでは、1ページの左から2列目の「太い矢印」の下に記載しております、1つ目の分類「**(市民が) 癒される・楽しむ**」です。

A欄の「現状と課題」をご覧ください。

まず、①市民が文化芸術の鑑賞・体験への「最初の一步」を踏み出せない。につきまして、先ほど、ご説明をしましたアンケート調査結果の抜粋を赤字で表示しています。

アンケート調査報告書のP. 25、市民：問10 文化芸術の鑑賞・活動をしなかった理由は何か ⇒ 「仕事や家事が忙しく時間的な余裕がない」：50.0%（第1位）

なお、緑色の文字は、豊岡市における同様のアンケート結果です。

その下段をご覧ください。

具体的な課題としましては、

- (1) 「自分とは違う世界のものだ」「興味がない」
- (2) 文化芸術の鑑賞について、生活の中での優先順位が低い現実がある。
- (3) 市民、特に高齢者の方は、「敷居が高い」「気取っていると見られる」と言った、何か慎ましやかな気後れした感想を漏らされる方が多い。

などです。

このような「現状と課題」に対しまして、B欄「具体的な取り組み」をご覧ください。

- (1) 市民のニーズや目的にあった特色あるイベント等の企画を行う。
- (2) 気軽に美術館に行けるように、作品発表をしたい方に、2階研修室で展示の機会を提供する。

という案です。

「どうしたら興味を持ってもらえるのか」「どうすれば生活の中で優先順位が上がるのか」等を意識して、イベント等の企画を行うことが大切ではないかと考えております。

再び、A欄の「現状と課題」をご覧ください。

②市民自らが市内の文化的資源を知らない。につきましては、

- (1) 丹波市は広いため、どこにどんな素晴らしい文化的資源があるのかわからない現実がある。
- (2) 文化芸術を鑑賞や体験をしたいと思っても、アプローチをする交通手段がない状況にある。

などです。

このような「現状と課題」に対しまして、B欄「具体的な取り組み」をご覧ください。  
(1)「9箇寺巡り事業（紅葉狩り）」等、市内の文化的資源を再認識できるような取り組みの充実をさらに図る。  
(2)丹波の森 国際音楽祭 シューベルティアーデたんば（街角コンサート）の充実を図る。  
などです。

この取り組みにつきましては、4つ目の分類「（文化財等を）活かす」においても、「知って頂くためにはどうすればいいのか」「交通手段等、どういう施策を打ち出して行けばいいのか」等も含めて、さらに考えて行く必要があると思っております。

再び、A欄の「現状と課題」をご覧ください。

③県と市の連携が少ない。につきまして、

(1)県と市のそれぞれで同じようなイベントをしている。

(2)お客さんの取り合いの状況になっている。

この(2)につきましては、その下段にも記載しておりますが、市役所の内部においても同様の状態です。

このような「現状と課題」に対しまして、B欄「具体的な取り組み」をご覧ください。

(1)イベントに適した時期が重なるため、年3回程度、県市連絡会の開催を行い、連絡調整を行う。

→ 具体的にどんな連携が可能か、必要かについて検討を進める。

ということです。

裏面の2ページをご覧ください。

2つ目の分類「（活動者が）癒す・刺激する・楽しむ」です。

再び、A欄の「現状と課題」をご覧ください。

①文化芸術活動を行う団体の構成員の高齢化により、後継者の育成ができていない。

アンケート調査報告書のP.143、団体：問4 文化芸術活動の問題や課題は何か ⇒ 「活動を支える人材」の不足：66.7%（第1位）

(1)高齢化により各種団体の会員の減少やリーダー的な後継者の育成ができていない。

(2)特に若い人は、「興味をもてない」「団体に入りづらい」という意識がある。

→ 逆に、団体には、若者を「育てる」「勧誘する」といった意識が少ない。

このような「現状と課題」に対しまして、B欄「具体的な取り組み」をご覧ください。

①文化芸術活動を行う後継者の育成を行う。

青色は、国（内閣府）・県が行った同様のアンケート調査の結果です。

内閣府 文化芸術振興のために国に力を入れてほしい事項

⇒ 「文化芸術を支える人材の育成」：44.2%

兵庫県 芸術家や芸術団体が力を入れるべきもの

⇒ 「担い手の育成」：64.3%

(1)地域で若い文化芸術の活動者の育成を行う。

→ 例えば、氷ノ川太鼓の「鼓輝（小学生グループ：約20名）」のような活動団体を地域で支える。

(2)文化芸術活動の「魅力」を伝える等、各種団体への後継者育成に関する研修会・講演会を開催する。

ということが大事ではないかということです。

再び、A欄の「現状と課題」をご覧ください。

③団体同士の連携・協調が少ない。につきましては、

(1)文化芸術活動を行う団体や個人同士が協力し合うことが少ない。より一層、活動の活性化や支え合うための体制づくりが必要である。

→ ただし、それぞれの団体が、それぞれの思いでイベントを実施されるため、協力し合うのは難しい面もある。

このような「現状と課題」に対しまして、B欄「具体的な取り組み」をご覧ください。

③団体同士の連携協調を行う。

P.149、団体：問6 課題を解決し、活動を活発にするためにはどうすればよいか ⇒ 「他団体との協力体制の構築」：29.4%（第1位）

(1)各種団体が交流できるようなサロンの「交流の場（拠点）」づくりを行う。

ということです。

次に、3ページをご覧ください。

再び、A欄の「現状と課題」です。

④文化芸術を担う芸術家の育成が必要である。

(1)丹波市・篠山市も含め、高校に美術の先生（専門）が一人もいないという現実がある。

このような「現状と課題」に対しまして、B欄「具体的な取り組み」をご覧ください。

④文化芸術を担う若手の芸術家の発掘・育成を行う。

P.49、市民：問22 文化芸術活動を推進するために市が支援すべきこと ⇒ 「文化芸術活動を指導・助言する人材」への支援：17.9%と低い状況ですが、豊岡市においても19.6%とほぼ同じくらいとなっています。

ただ、今、文化芸術を担う芸術家等の育成をしていかないと、文化芸術活動をする人が成り立たないのではなかと思っています。将来的には、先生が不在の状況となってしまう可能性があるということです。

「具体的な取り組み」としましては、

(1)文化芸術に関するサロンの「交流の場（拠点）」づくりを行う。

→ 中学校・高等学校の美術部等との連携を、可能な限り図っていく。

再び、A欄の「現状と課題」をご覧ください。

⑥市民のホールイベントへの意識・関心が低い。

P.25、市民：問10 文化芸術の鑑賞・活動をしなかった理由は何か ⇒ 「仕事や家事が忙しく時間的な余裕がない」：50.0%

現状としましては、

(1)自主事業や映画会、市民参加型フェスタなどを開催し、年間約3万人の来場者がある。これは、ホール（春日文化ホール、ライフピアいちじま大ホール）のことであります。

このような「現状と課題」に対しまして、B欄「具体的な取り組み」をご覧ください。  
⑥丹波市（県を含む）の特徴的な分野やレベルに特化したホールイベント等にさらに磨きをかける。

(1)丹波市（県を含む）の特徴的な分野やレベルに特化した取組をさらに進める。

例えば、シューベルティアードたんば、アマチュアアーティスト育成支援事業（バンド・ピアノ・ダンス・和太鼓フェスタ）等、独自の取組を行う。

→ 特に、シューベルティアードたんば、和太鼓フェスタ等、20年以上にわたり継続して実施してきたイベントは、「丹波市の完全オリジナル企画」として、さらに発信していく必要があると考えています。

次の4ページをご覧ください。

中ほどから始まる、3つ目の分類「（子どもたちを）育む」です。

再び、A欄の「現状と課題」をご覧ください。

①普段の生活の中で子どもたちの記憶に残るような体験が大切である。

P.52、市民：問24 子どもの頃から質の高い文化芸術に触れる機会が必要か

⇒ 「どちらかと言えば思う」も含めた「思う」：82.6%。ということです。

その下段をご覧ください。

→ 丹波市内には沢山の文化資源があるため、新たに何かをするのではなく、県の施設（イベント）も含め、今あるものを上手く活用し、記憶に残るような文化芸術に触れる機会をつくるのが大切である。というご意見をいただいております。

★丹波市内において、社会全体で（子どもを）育んでいる状況

- |          |          |
|----------|----------|
| (1)ピアノ教室 | 20 教室    |
| (2)ダンス教室 | 10～15 教室 |
| (3)和太鼓   | 4～7 教室   |
| (4)バンド   | 51 団体    |

※なお、(1)～(3)は、アマチュアアーティスト育成支援事業の参加団体を計上していますので、実数は、もっと多い状況であると思います。

(4)は、音楽練習スタジオ利用団体

このような「現状と課題」に対しまして、B欄「具体的な取り組み」をご覧ください。

①普段の生活の中で子どもたちの記憶に残るような文化芸術鑑賞・活動を行う。

P.49、市民：問22 市が支援すべきことは何か

⇒ 「子ども・若い世代が文化芸術に親しむ機会」への充実：53.3%

内閣府 文化芸術振興のために国に力を入れてほしい事項

⇒ 「子どもたちの文化芸術体験の充実」：48.6%

その下段の取り組みとしましては、

(1)プロの演奏家との共演を行う。

例えば、本年度は、プロの演奏家と市島中学校吹奏楽部との共演があり、一生のうちに経験できるか、できないかの経験ができたのではないかと思います。来年度は、市内の氷上中学校とも共演できればと考えております。

(3)高校生企画（卒業ライブ）、ライブピアDEクリスマス、親子で楽しむ0歳からのコンサート等、幼児から若者を対象にした独自の企画や取組を行う。



本年度、既に終了した事業ですが、お手元に配布しましたチラシの中で、特に、「高校生企画の卒業ライブ」につきましては、高校生自らが企画運営に関わり、チラシのイラスト画も高校生が制作したものです。

このような取り組みをさらに進めて行く必要があるのではないかと考えております。

次に、5ページをご覧ください。

再び、A欄の「現状と課題」をご覧ください。

③学校教育での文化芸術体験が大切である。（音楽系）

ただ、大前提として、勉強のカリキュラムがある中で、学校教育現場だけで解決することはできない課題である。という認識が必要であると思います。

P.54、市民：問26 子育て過程でどのような取組が必要か

⇒ 「芸術家による公演など学校における鑑賞体験の充実」：59.8%

内閣府 子どもの文化芸術体験で重要な事項

⇒ 「学校における公演などの鑑賞体験を充実させる」：58.3%

と、ほぼ同じくらいの率です。

現状としましては、

(1)「シューベルティアードたんば」で、小学校へのアーティスト派遣を行っている。

(2)丹波市では、全ての中学校で10時間以上、演劇とか合唱に取り組んでいる。

との状況にあるというご意見をいただきました。

次に、B欄の「具体的な取り組み」をご覧ください。

③学校教育で、優れた文化芸術に身近に触れ、感じる力（まごころ・愛着・創造力）を育む。（音楽系）

(1)「シューベルティアードたんば」等で、学校へのアーティストの派遣を充実させる。※小学生：ふるさと音楽広場、中高生：キン・コン・カンコンサートを行う。

また、この資料には記載しておりませんが、市内の小学校におきましては、東小学校では「鼓笛隊」、吉見小学校では「金管バンド」、本日、ご出席の〇〇委員が校長を務められている鴨庄小学校では「鴨庄っ子太鼓」等、それぞれが文化芸術活動に取り組みながら、地域の皆さんと交流されており、すばらしい状況にあると思っています。

いずれも、子どもたちにとって、素晴らしい体験ができていないのではないかと感じております。

再び、A欄の「現状と課題」をご覧ください。

④学校教育での文化芸術体験が大切である。（文化的資源系）

(1)たんばふるさと学や地域学習を充実させる。

→ 市内の地域史等を学ぶ授業として、各校において単元や学習内容を系統的に位置づけている。

下段の四角で囲っております中をご覧ください。

例) 檜皮葺：5年生、黒井城跡：6年生、丹波布：1・3・6年生、旧上久下村宮上滝発電所記念館、鐘ヶ坂トンネル、薬草薬樹公園：4年生、水分れ資料館、伝統行事：3年生、柏原藩陣屋跡・長屋門・大ケヤキ(木の根橋)：6年生

各学校、学年において、地域学習に取り組んでいただいております。

このような「現状と課題」に対しまして、B欄「具体的な取り組み」をご覧ください。

④学校教育での文化芸術体験を充実させる。（文化的資源系）

P. 49、市民：問22 市が支援すべきことは何か

⇒ 「学校教育における地域の歴史や文化への学習」の充実：29.3%（参考）

(1)引き続き、たんばふるさと学（総合学習）の充実を図る。

(2)旧町域を超えた学習機会をさらに進める。

次の6ページをご覧ください。

再び、A欄の「現状と課題」をご覧ください。

中ほどから始まる、4つ目の分類「（文化財等を）活かす」です。

①伝統芸能・伝統文化等の保存・継承が失われつつある。

P. 40、市民：問18 大切にしたい文化的資源

⇒ 「地域の祭り・行事・芸能などの伝統文化」：56.3%

(1)後継者不足により、一部の伝統芸能等が失われつつある状況にあるため、これらに対する保存・継承への取組が喫緊の課題である。

(2)神輿の担ぎ手がいいため、祭りのために都会から戻ってくる状況にある。

→ 素晴らしいことではないかと思えます。

(3)若い世代では、「伝統文化的な行事」「しきたり」が億劫になっている。また、「溶け込めない」という現実がある。

このような「現状と課題」に対しまして、B欄「具体的な取り組み」をご覧ください。

①伝統芸能・伝統文化等の保存・継承を行う。

P. 49、市民：問22 市が支援すべきことは何か

⇒ 「伝統芸能・祭りなどの保存や継承」への支援：33.3%

P. 45、市民：問20 まちづくりを推進するために必要なことは何か

⇒ 「地域の伝統芸能・祭りなどの保存や継承」が必要：42.9%

「歴史的価値のある文化財の保存や活用」が必要：32.8%

その下段の取り組みですが、

(1)祭り等の意義の継承（説明）を行い、ある程度理解した上での保存・継承を行う。

→ なぜ、継承をするのかの意味が理解されていない場合が多い。

(2)（職員自らが）一人の市民として積極的に地域に貢献（参画）する。

→ 例：柏原藩織田まつり、丹波竹田祭、はだか祭り等、職員として末永く、できれば、企画立案から関わり続けてほしいと思っております。

次に、7ページをご覧ください。

再び、A欄の「現状と課題」です。

②文化財（技術）の保存（継承）・活用が十分にできていない。

(1)広大な市域には合併により、沢山の文化的資源が点在しているが、それぞれがバラバラで繋がっていない現実がある。

(2)稲畑人形制作技術においては、後継者が不在の状況である。

このような「現状と課題」に対しまして、B欄「具体的な取り組み」をご覧ください。

②文化財（技術）の保存（継承）・活用を行う。

→ 新たなものを作るのではなく、今あるものや、埋もれている資源を発掘し、活用する。

(1)文化財等を「積極的に活用」していくことが、保存・継承に繋がる。

(2)各資料館の整理統合と併せて、市内に点在する文化財の保存の充実を図る。

→ 「見てもらう」だけでなく、体験できるような施設整備（活用）を検討する。

例：稲畑人形（伝承館、稲畑人形制作コーナー等の実施）

(3)家に眠っている古い稲畑人形を集積し、空き施設等を活用した特徴ある展示を検討する。

→ 例としまして、現在、柏原地域の各所で、実行委員会による「丹波かいばら雛（ひな）めぐり」というイベントが、3月31日まで開催されています。

たいへん素晴らしい取り組みであると思います。

再び、A欄の「現状と課題」をご覧ください。

③新たな文化的資源の発掘・活用がなされていない。

P.101、高校生：問11 丹波市で体験した文化芸術で、「魅力があること」「素敵なこと」「人に紹介したいこと」は何か

⇒ 「地域の祭り・民族芸能（盆踊りなど）」：12.9%

(1)あまり知られていない文化的資源の発掘・活用がなされていない状況にある。

次に、B欄の「具体的な取り組み」をご覧ください。

③丹波市の魅力的な文化的資源にさらに磨きをかけると共に、あまり知られていない文化的資源を発掘・活用する。

まず、丹波市の業務（事業）上の役割分担でございますが、

●丹波市の業務（事業）には、役割分担があります。

例としては、

文化財課                   ： 水分かれ資料館のリニューアル

恐竜・観光振興課       ： それを情報発信・活用をしていく

上記のように、縦割りのではありますが、丹波市では整備・情報発信・活用をこのように行っております。

なお、4月からは、現在の恐竜・観光振興課を「恐竜課」「観光課」「観光拠点整備室」の3課に細分化しまして、さらに丹波市をPRしていきます。

(1)気軽に文化的資源を観れる（学習）ツアーを企画・検討する。

→ 既に、「TAMBAシニアカレッジ（市）」「丹波OB大学（県）」として、実施されております。

また、俳句サークルは市内に沢山あり、俳句の好きな方をターゲットにしたツアーの検討を行う。というご意見をいただきました。

(2)観光・商工業ユニティプランに基づく取組を行う。

→ ユニティプランでは、既存の観光資源に磨きかけるとともに、新たな資源を発掘する。という目標が掲げられております。

(3)地域文化的資源再発見（発掘）プロジェクト（募集型）の検討を行う。

→ 例えば、春日地域国領地区の本上田邸のように、古民家を利用したアートクラフト展等、これまでに取り組んでいないものを市民の盛り上がりで企画立案

し、見せていくことも大事かと思えます。丹波市の既存の補助制度等を活用しながら検討する。ということです。

最後に、8ページをご覧ください。

再び、A欄の「現状と課題」です。

④適切な情報発信ができていない。

P. 32、市民：問14 文化芸術の情報を十分に得ているか

⇒ 「情報を得ているとは思わない」：43.9%に対して、「思う」：25.8%

P. 34、市民：問15 文化芸術の情報を何から得ているか

⇒ 「市の広報紙・防災行政無線」：55.8%、「チラシ・ポスター」：39.4%、「家族・友人・知人からの口コミ」：29.0%

(1)情報が欲しい人の所に、欲しい情報が届いていない。という、現状があるのではないかと思います。

このような「現状と課題」に対しまして、B欄「具体的な取り組み」をご覧ください。

④魅力ある文化的資源（祭事・文化財等）を学習したり、楽しんだりできるような適切な情報発信を行う。

(1)ビデオ媒体（恐竜・観光振興課、文化・スポーツ課）を活用した文化・芸術活動のPRを行う。（プロモーションビデオ）

→ 現在、プロモーションビデオの制作をそれぞれ両課で行っており、恐竜・観光振興課につきましては、主に市外向けのPRビデオ。また、文化・スポーツ課につきましては、市民に丹波市の文化的資源を知っていただくための、市民向けPRビデオの制作を進めております。

(2)文化芸術に特化した「総合情報誌」の制作・検討を行う。（情報ツールの構築・活用を行う）

以上、長々とお説明させていただきましたが、「こういった視点が漏れ落ちている」というようなことも含めまして、このあと、ご意見を頂戴できれば、たいへん嬉しく思います。

誠に雑駁な説明ではございましたが、委員の皆さまのご審議のほど、よろしく願いいたします。

会長

〇〇さん、ありがとうございました。

たいへん盛り沢山な内容を、出来栄え良くまとめていただきまして、圧巻という感じでした。とはいえ、こちらの頭もクラクラしてしまいました。

皆さんの頭の中を整理するために、これから休憩をした後、質疑応答に移りたいと思いますが、私が驚きましたのは、この間、1年足らずでしたが、これらのアンケート調査・その分析、それから先ほどの施策体系のまとめ（素案）、これらは全くフォーマットが無い状況で、しかもコンサルタントやシンクタンクに外部委託しないで、行政の内部である文化・スポーツ課のスタッフだけで仕上げたというのは、前代未聞と申しますか、ちょっと驚異的な仕事量なのです。

いくつかのパターンがありまして、普通はコンサルタント会社がやってくれます。それから、フォーマットがあって、そのフォーマットに当てはめる形で、地域特性を少し加味するような素案ができることが多いのですが、今回は、これを全部自前で、しかも

	<p>人員の増強なしにやったというのは、すごい仕事量なのです。</p> <p>まず、このことを皆さまにご報告したいと思います。私たちは支援したと言っても、学生の意見を聴取して、ここに入れただけなので、審議会での皆さまのご意見と、このアンケート調査、それからヒアリングの内容を加味して、完全にボトムアップで作られました。私も初めての経験で、たいへん驚いています。</p> <p>ということで、褒めたことになっているのか分かりませんが、まずは、事務局の労をねぎらいたいと思います。</p> <p>(委員の拍手)</p> <p>それでは、頭の中を整理するために、10分間の休憩にします。少しお休みください。</p> <p>(休憩)</p> <p><b>(3) 丹波市生涯学習整備方針（適正配置計画）について</b></p> <p>会長 それでは、次第の「(3)丹波市生涯学習整備方針（適正配置計画）」につきまして、事務局から説明をしていただき、最後に、まとめて質疑応答の時間を設けたいと思います。よろしくお祈いします。</p> <p>事務局 (課長) それでは、「丹波市生涯学習施設整備方針【適正配置計画】」をご覧ください。</p> <p>前回の審議会において、〇〇委員からご質問いただきました件でござまして、その件につきましてご説明させていただきます。</p> <p>それでは、表紙の右側のページをご覧ください。</p> <p>この「丹波市生涯学習施設整備方針」は、平成25年3月に策定したものです。</p> <p>まず、経過等につきまして、簡単にご説明させていただきます。</p> <p>平成16年11月の合併時に、旧町から引き継いだ施設は、スポーツ活動、文化芸術活動をはじめ、いずれも旧町時代に必要な施設として整備されたものです。</p> <p>しかしながら、現在では、市内に類似施設が混在し、利用に見合った施設配置であるとは、言い難い現状でございます。</p> <p>そこで、少子高齢化社会を迎え、施設の維持管理経費についても見直しを迫られる中、平成24年度に検討委員会を立ち上げ、15名の委員の皆さまに「生涯学習施設整備方針【適正配置計画】」を策定すべく諮問し、平成25年3月に策定をしたところでございます。</p> <p>次に、3ページをご覧ください。</p> <p>3番の対象とする「施設群」と「施設数」です。</p> <p>本計画で対象となりますのは、まず、最上段の「住民センター」です。</p> <p>この住民センターは、各旧町域の文化芸術活動をはじめ、地域や団体の会議など、幅広く市民の皆さまにご利用をいただいております。</p> <p>また、下から3行目の「文化ホール」につきましては、春日地域が「春日文化ホール」、山南地域は「やまなみホール」、市島地域は「ライフピアいちじま大ホール」です。</p> <p>なお、「やまなみホール」につきましては、現在、貸館対応としております。</p> <p>その下段の「資料館」につきましては、山南地域を除く5地域に1施設ずつ、計5つの資料館がございます。</p>
--	--

	<p>次に、6ページをご覧ください。</p> <p>ここからは、それぞれの施設群の状況と将来像を示しております。</p> <p>まず、「(1)住民センター」です。</p> <p>現在、各旧町域に1施設ずつ、計6つの住民センターがあります。</p> <p>最下段の「住民センター統廃合図」をご覧ください。</p> <p>将来像としましては、市民の日常的な生涯学習の場や、地域づくり活動の場を確保するため、これまでどおり市内の各旧町域に1施設を存続することとしております。</p> <p>次に、12ページをご覧ください。</p> <p>「(6)文化ホール」です。</p> <p>生涯学習及び文化芸術の振興を市の独自施策として展開するため、現在、3施設あるホールは、最も設備が充実している「ライフピアいちじま大ホール」を市の中心ホールとして存続させ、他の2施設については、既存設備を改造して多人数での大会・研修会等で使用できる貸し部屋に用途変更し、建物が使用不能となるまで利用していくことで施設の有効活用を図ります。</p> <p>隣の13ページの「文化ホール統廃合図」をご覧ください。</p> <p>将来像としましては、今から約20年後の2045年に、ライフピアいちじま大ホールが老朽化により更新（建替え）の必要が生じたときは、市内中心地域に市民ホールを新設することとしております。</p> <p>なお、先ほどご説明をさせていただきましたとおり、やまなみホールにつきましては、既に貸館対応としており、春日文化ホールにつきましても、現在、貸館対応のような形態で使用しております。</p> <p>最後に、14ページをご覧ください。</p> <p>「(7)資料館」につきましては、現在の5施設を、「資料館：1施設」「模型や解説パネル等による説明・情報発信が可能なガイダンス施設：1施設」に整理統合し、用途廃止した施設においては出土遺品等の各種資料を保管することとしております。</p> <p>なお、この整備方針は、あくまで平成25年3月時点での方針ですので、現在の状況等も鑑みまして、必要に応じて本方針の改定を含め、進めていく予定にしております。</p> <p>以上です。</p> <p>会長                      ありがとうございました。</p> <p>                              ただ今の説明において、本計画の策定に最も関連するのは、「文化ホール」ですかね。「住民センター」等も関連してくると思いますが。</p> <p>〇〇委員                「住民センター」とは、どのような機能を有する施設なのですか。</p> <p>事務局                    「住民センター」は、例えば陶芸や音楽系の太鼓・三味線など各種文化芸術活動を行う団体、スポーツ団体であれば会議・総会などで多目的に利用されている施設で、各旧町域に1施設ずつ設置されています。</p>
--	--

<p>会長</p>	<p>「住民センター」は市内各地域に1施設が存続し、「文化ホール」は統廃合されることになっていますが、ずいぶん先の25年後や2045年を見据えた整備方針ですので、本計画策定の審議においては、考慮しないということによろしいですね。</p> <p>それでは、すべての説明が終了しましたので、まず最初の「アンケート調査報告」に絞って、委員の皆さまから忌憚のないご意見・ご質問をいただきたいと思います。</p> <p>説明不足のポイント、分析の仕方が違うなどのご意見がございましたら、あわせてご指摘ください。</p> <p>「アンケート調査報告書」において、常に30歳～39歳が赤い囲みで強調されていたと思いますが、その世代の意見にはパワーがあります。そのことと、この地域の居住年数との関連性ですが、丹波市に「20年以上お住いの人」「10年以上20年未満の人」「5年以上10年未満の人」「5年未満の人」の相関関係のグラフがあったと思います。</p> <p>これは推測ですが、30歳～39歳は、結婚や何らかのきっかけで丹波市に住むようになって10年前後の方々の意見である可能性が高く、他のまちと比較して丹波市の良い面・足りない面などを判断することができる人たちであり、その方たちの意見は重要だと思っています。ひとつの見方ですが、3年や5年単位で引っ越しをする転勤族を除いて、何年か丹波市に住んでいる方は、将来も丹波市に住まわれる可能性が高い方たちだと思います。自身の子どもの世代も含めて、丹波市で長く暮らしていくためには、どのような環境を整備すればいいのか、特に文化芸術面において、「何が足りない」「何が欲しいのか」をハッキリと考えている“将来に向けての当事者”であると思います。</p> <p>今回の計画策定においては、そのような方々の意見を重視すべきだと思いました。</p> <p>〇〇委員、何かございますか。お願いします。</p>
<p>〇〇委員</p>	<p>失礼します。〇〇と申します。</p> <p>私は、学校教育関係から選出されている委員ですので、特に子どもに焦点を当てたアンケート調査結果について、責任を感じるとともに、たいへん嬉しく思いながら事務局の報告を聞いていました。</p> <p>しかし、教育課程・学校教育において、音楽や図工・美術等の芸術系の時間数が減少してきていることを非常に感じています。決して、軽視されているわけではありませんが、教育予算的にもなかなか厳しい状況にあります。</p> <p>施策体系（案）にも協調して記載されていたとおり、子どものうちから芸術に触れておくことが大事であると思っています。たとえば、幼い頃からオーケストラの音を耳にしておかなければ、大人になってからクラシック音楽を受け付けるのは難しいことです。音楽に限らず、子どものうちから、幅広く様々な芸術に接しておくことが重要だと感じています。前任校において、たいへん図工が好きな職員が主となり、丹波市のバスを利用して、全校児童を植野記念美術館へ連れて行き、鑑賞する機会を設けました。子どもたちだけでなく、学校職員も良い機会だったと感じました。そのような機会を設けることが、後々、子どもたちの将来に少なからず良い影響を与えることに繋がると思います。</p> <p>教育課程・時間数が限られており、また資金的にもなかなか難しい中で、学校教育において子どもたちが文化や芸術に触れる機会を設け、それに対して行政が資金的にも援助するということが施策体系（案）に盛り込まれており、たいへん良い基本方針だと思います。</p>

また、子育て世代のお母さん方は子育てに一生懸命で忙しく、核家族化などの影響で家庭外との人間関係や情報が行き来しない状況にあります。子どもと一緒に外出して交流できる機会を設けることで、人とのつながりが生まれ、リフレッシュすることができるので、大事なことだと思いました。保護者同士のつながりが豊かな地域を築くためにも、子育て世代をターゲットにした取り組みが大事だと思います。たとえば、学校では、地域を巻き込んでふるさと教育や人権教育などを進めています。年配の方に比べて、子育てに忙しい世代である保護者の参加が少ない状況です。同様に、文化芸術に関しても、その世代が触れられていないのではないかと感じていますので、子育て世代に対して、何らかのアクションを起こしたり、子どもと一緒に参加できる機会などの仕掛けづくりが大事だと思います。

最後に、私の妻は阪神間の出身ですが、丹波市と比較して、阪神間は便利で住みやすいだけでなく、様々な情報に接しやすいと口にすることがあります。心の豊かさと言うか、様々なものに接する機会は、残念ながら都会の方が多くあります。妻の友達や丹波市外から転入してきている若い奥さん方は、何とか丹波市も様々な面で心地良いと感じたり、面白いと思うものに多く触れられる地域になってほしいとの思いを抱いているようですので、施策体系（案）に盛り込まれている視点は非常に良いと思いました。

会長

ありがとうございました。

ただいま、〇〇委員の奥様のお話がありましたが、特に丹波市外から転入されている方々は、同じようなご意見をかなり強くお持ちなのではないかと実感しました。

丹波市は自然が豊かで、地域住民の人柄も良いが、都市部に比べて刺激的なアートに触れる機会や情報が少ないことなどを感じており、そのモヤモヤ感をみんなで話し合うことで、何かのプロジェクトに結び付けていけるような場づくりができればいいなと思いました。最初は、タウンミーティングのような形から始めて、次に居場所づくり、それから事業やプロジェクトに繋げるような手順を進めていけば、丹波市ならではの新しい文化施策が展開できるのではないかと思います。

他に、何かございませんか。

はい、〇〇委員。お願いします。

〇〇委員

〇〇と申します。私は、植野記念美術館友の会の役員をさせていただいておりました。

植野記念美術館の運営委員会においても、子どもたちの育成、感性を育むことが大切だという意見がありました。たとえば、滋賀県では、すべての子どもたちが琵琶湖に接するという教育課程があります。丹波市には、植野記念美術館という芸術の拠点がありますので、できれば最も感性が豊かな10歳の学年に、丹波市内のすべての小学校の児童が植野記念美術館を訪れて、大理石の床を歩き、説明を聞きながら芸術作品を鑑賞することができればとの意見がありました。しかし、ある委員から、「植野記念美術館に行こうと思うが、学校から遠方であるため、バスを手配するにも丹波市の福祉バスが廃止されており、美術館へ行くことができない」との意見がありました。また、来館した経験のある子どもが、家族を美術館に連れてきて、説明している素晴らしい光景があったとの意見もありました。他には、子育て世代のお母さん方が美術館に来館できるように、お母さんが鑑賞中に託児を行うためのボランティアを募集したり、将来は展示会のギャラリートークでガイドできるボランティアも養成しようという意見があり、そのような



	<p>取り組みを通じて、美術館友の会の会員を増やし、みんなで美術館を盛り上げていこうという意見になりました。</p> <p>まず、かかわることが重要で、たとえば学校の地域学習で学んだことを大人に説明する機会があると、子どもには地域への愛着が生まれてきます。子どもたちは、自分が説明する側になると、張り切って頑張ります。柏原地域では観光ボランティアが活動されていますが、美術館でもガイドボランティアを養成することができれば、さらに盛り上がるのではないかと考えています。</p> <p>学校関係には、丹波市内のすべての児童が、小学校の6年間に一度は植野記念美術館に来館するようなカリキュラムを組んでいただければ、たいへん嬉しく思います。</p> <p>会長</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>小学校のすべての児童が美術館を訪れることは、予算の問題もあるため、教育委員会を巻き込む必要があると思います。</p> <p>他に、何かございませんか。</p> <p>はい、〇〇委員。お願いします。</p> <p>〇〇委員</p> <p>丹波市文化財保護審議会委員の立場で参加させていただいている〇〇と申します。</p> <p>子どもに対する施策や取り組みの中で、学校は何度も登場していましたが、児童館は登場していなかったと思います。丹波市では、氷上地域に1館だけ児童館が設置されています。その児童館には、無料で誰もが参加できる寺子屋があり、私は、子どもに英語を教えています。定期的ではなくても、寺子屋を含めた学校以外の場所において、文化財や地域史などを出前で教えることができると考えています。</p> <p>先ほど、学校では保護者が参加しにくいとの意見がありましたが、土曜日に行われている寺子屋には保護者の参加も多いので、児童館を活用する方法もあると思いながら聞いていました。</p> <p>また、文化財の保護と活用については、両方ともに大事だと考えています。保護するだけではなく、広く知ってもらうための活用が必要だと思います。たとえば、現在、柏原藩陣屋跡では雛人形を展示されており、素晴らしい活用だと思います。しかし、昨年、生け花展示の準備段階で、水がこぼれてしまいそうになったことがありました。活用するのであれば、ある程度の誰でもわかるルールづくりが必要となり、そのルールの範囲内で活用するべきだと思います。観光も大事ですが、一度傷ついてしまったものを元の状態に戻すのは、すごくたいへんなので、ルールづくりは必要だと考えます。</p> <p>本日は、能楽の話が出てきませんでした。この地域では伝統的に丹波猿楽があり、一昨日、その延長で子どもが参加できる狂言と能のイベントがありました。これをもう少し発展させていく必要があると考えています。また、私はコミュニティセンターで“歴楽”という歴史を楽しむ講座をしており、その中で子どもを対象にした夏休み講座もしています。学校以外の児童館やコミュニティセンターにも、文化芸術に触れる場や選択肢を多く設けることが必要だと思います。</p> <p>最後に、事前に自宅へ送付されたアンケート調査結果報告書（案）に目を通して、本日の会議に臨みましたが、文化財に期待されている方が予想外に多い結果をたいへん嬉しく思いました。文化財保護は地味な活動だと思っていたのですが、高校生も含めて、ちゃんと見てくれている方が多いことが嬉しかったです。</p>
--	--

<p>会長</p>	<p>一方で、アンケート調査の数値結果は、“多数決的”になってしまう危険性をはらんでいると思います。しかし、特に文化財においては、たとえ10%や20%でも、“大事なものは大事”ということがあります。アンケート調査結果報告書（案）には、個別の自由意見もすべて記載されていますが、たとえ少数意見であっても、自由意見を記入してくれた方々の意思を汲み上げていくような取り組みをしていかなければならないと、強く感じました。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>私も、数字だけを信じてはいけないと思っています。</p> <p>消費者ニーズに応えるのであれば、数字を指標にして進めていけばいいのですが、行政の施策においては、それとは異なることがあります。</p> <p>たとえば、今回のアンケート調査結果において、「もっとショッピングモールを増やしてほしい」という若い世代の自由意見が複数ありました。私は近所の商店街で育った世代ですが、その後に郊外型のショッピングセンターが建設されるようになると、自家用車に乗ってニューファミリーが出かけていくようになりました。たしかに、ショッピングモールは画一的で、広くてエンターテイメントもあり、お手軽なのですが、本当に子どもたちの良い情操教育になるのかを疑問に思う世代でもあります。</p> <p>しかし、次の世代では、それが当たり前になってしまっているのです。そうすると、子どもたちからは、「他の地域にはショッピングモールがあるのに、なぜ丹波市にはないの?」「もっと大きなショッピングモールがほしい」という意見が多く出てきますが、「じゃあ、ショッピングモールを建設しよう」となってしまうのは違うと思うのです。</p> <p>そういった場合には、私たち年配の世代が、あるべき姿を示していくことが必要だと思っていますので、数字だけを信じてはいけないということは、よく理解をしています。</p>
<p>事務局 (課長)</p>	<p>先ほど、ご意見いただきました児童館の活用につきましては、後日、担当課に相談したいと思います。また、“文化財の活用にはルールづくりが必要”とのご意見につきましては、本日の会議に担当課長が出席しておりますが、大事なことだと思っておりますので、進めていきたいと考えております。あと、能楽につきましても、一昨日のプレ公演に出向きまして、ビデオ撮影をさせていただきました。今後のプロモーションビデオの中で登場するかは不明ですが、子どもを対象にした大切な取り組みだと考えております。</p>
<p>会長</p>	<p>他には、いかがでしょうか。</p> <p>では、アンケート調査以外でも、何かございましたら、お願いします。</p> <p>はい、〇〇委員。お願いします。</p>
<p>〇〇委員</p>	<p>「施策体系図（まとめ）案」の基本方針に“あまり知られていない文化的資源を発掘・活用する”と記載されていることに関してお話すると、現在、たいへん有名な唱歌である“旅愁”についての発掘を進めています。</p> <p>“旅愁”の作詞者である犬童球溪は、明治時代に旧制柏原中学校に教師として赴任した経歴があります。その経歴を辿っていくうちに、これは素晴らしいことだと盛り上がり、現在、柏原地域のたんば黎明館の前に“旅愁”の歌碑を建立しています。建立の場所は、田舎女の俳句の歌碑が並んでいる隣で、丹波市から土地を提供していただき、新</p>

元号に変更となる今年の5月1日に除幕式を行います。“旅愁”の歌詞を刻んだ歌碑、その横には犬童球溪と柏原地域・丹波市とのつながりやロマンを書いた副碑を設置します。

今回の歌碑を建立する経過ですが、犬童球溪は、熊本県人吉市の貧しい農家に生まれましたが、優れた音楽的な才能があり、熊本県を挙げて東京音楽大学に進学しました。東京音楽大学に在学中、戦争続きで荒れた男子生徒の心を癒す情操教育を取り入れようと考えた旧制柏原中学校の校長が上京し、旧制柏原中学校に音楽科の教師として招きました。大学卒業後の4月に新任教師として旧制柏原中学校に赴任し、張り切って音楽教育を実践しようとしたが、まだ音楽教育への理解がなかった当時の生徒たちは授業を妨害しました。そのような授業の妨害が何日も続く中、犬童球溪は心身ともに病んでしまい、追われるように旧制柏原中学校を去ることになりました。その後、新潟高等女学校に転任し、そこで“旅愁”を作詞しました。旧制柏原中学校でのつらい思いが、2番の“窓うつ嵐に 夢もやぶれ はるけきかなたに 心まよう”という有名な歌詞に表現されています。また、新潟高等女学校の赴任中には“故郷の廃家”という曲も作詞しており、素晴らしい曲が現在まで残っています。その後、赴任時につらい思いをした旧制柏原中学校から校歌の制作を依頼された際、犬童球溪は快く引き受けて作曲しました。

“旅愁”という歌は広く知られていますが、このような経過については、ほとんど知られていません。

その経過を広めるために、7～8名の委員が立ち上がり、歌碑の建立に際して一口5,000円で寄付を募りましたが、寄付者の氏名を裏面に刻む副碑が1基では足りなくなるほどの大きな反響がありました。東京や関西などの様々なところから寄付をいただき、この犬童球溪の話を“丹波市の宝”にして、後世に伝えていこうということになりました。また、副碑の横には、ボタンを押すと“旅愁”が流れる音楽装置も設置し、丹波市内に12グループくらいある童謡唱歌を歌う会に呼びかけて、先日、植野記念美術館において収録を終え、順調に除幕式を迎える準備が進んでいます。ロコミ、FM805たんばでの放送、新聞記事の掲載で今回の歌碑建立の情報が広まっており、“丹波市の文化”として引き継いでいけないかと思っています。

様々な場で「“旅愁”はご存知ですか？」と尋ねると“エッ？”と言われますが、実際に“旅愁”を歌えば誰もがご存知で、歌うことができます。しかし、中学校の音楽の教科書から“旅愁”が消えて以降、子どもたちはこの曲を知りません。今回の歌碑建立にあたり、“ふるさと”の歌碑がある鳥取市に行ってきましたが、それよりも大きな歌碑となります。兵庫県内には、たつの市に“赤とんぼ”の歌碑などがありますが、今回の歌碑を観光に活用し、童謡唱歌の会のツアーに入れるという話も出ています。後日の除幕式もニュースになると思いますので、今後に関心を持って、皆さまのご支援をいただければ、たいへん嬉しく思います。

会長

貴重なインフォメーションをありがとうございました。  
はい、〇〇委員。お願いします。

〇〇委員

丹波の森公苑の〇〇と申します。  
市民アンケート調査結果報告書（案）の中で、子育て世代だと思われる「文化芸術を鑑賞しなかった理由」として、“仕事や家事が忙しく、時間的な余裕がない”が1番に

挙がっています。したがって、子どもを連れて一緒に文化芸術を鑑賞することができないから、「学校における鑑賞体験の充実」を求めているということにつながっているのではないかと思います。

前回の審議会でもお話ししましたが、丹波市の小中学校においては、芸術鑑賞系の時間を多く設けている方だと思っています。しかし、児童・生徒が本当に文化芸術に触れるというレベルに達する時間になっているのかは、児童・生徒にしか分からないところがあります。学校としては、児童・生徒が文化芸術に触れる時間を設けていると思っているが、家庭においては家族と一緒に文化芸術を鑑賞する機会がないということではないでしょうか。それには、アンケート調査結果の自由意見にあった、「交通の便」が影響しているのではないかと思います。

たとえば、ライフピアいちじまで素晴らしい文化芸術に関するイベントがあったとしても、青垣地域や山南地域からは車で30分以上の時間を要することになります。そこが都市部とは大きく異なっていると思います。また、丹波の森公苑においても、1階の展示ギャラリーでアマチュアの方々が写真や絵画などの作品を展示されています。そのような活動をされている方々は、多くの人に観てほしいとっていて、無料で提供している展示ギャラリーは、1年先まで予約がいっぱいの状態です。常に作品を展示していますが、それを青垣地域から鑑賞に行くとなると、時間的になかなか難しいと思います。シューベルティアードたんばのコンサートについても同様で、近隣の街角が会場となる“街角コンサート”では、どの会場においても観客が多いが、ホールでのコンサートとなると観客が少ないのが現状です。

その状況の解決方法としては、文化芸術を鑑賞しなかった理由が“仕事や家事が忙しく、時間的な余裕がない”ですので、“時間がかからない方法”を考えるしかないと思っています。植野記念美術館も素晴らしいが、周辺地域から鑑賞に行くとなれば、移動にかなりの時間を要することになります。興味がある展覧会であれば、たとえ時間を要しても鑑賞に行くが、ふらっと行くような感じではありません。

まず、市内の各地域に設置されている住民センターなどで作品を展示すれば、気軽に親子が散歩のついでに文化芸術に触れることができるような機会が増えるのではないかと思います。

会長

ありがとうございました。

ただいまのご意見について、事務局から何かアイデアなどがありますか。

副市長

ただいまのご意見に対する質問です。

たしかに、丹波市内は交通の便が悪く、人が移動しにくい状況は、文化芸術を鑑賞する機会を阻害している要因のひとつではありますが、“どのような芸術文化であれば、時間を要しても鑑賞に行くか？”ということが問題であると思います。

たとえば、〇〇副会長のお勤め先である西宮市の兵庫県立芸術文化センターであれば、遠方からでもお客様がお越しになっており、オペラであれば、高額な席からチケットが売れています。また、〇〇委員が館長をお勤めされている兵庫陶芸美術館も、篠山市内の車でなければ行けないような場所にありますが、それなりの人数のお客様が来館されています。交通の便が、文化芸術を鑑賞する機会に対して、どれだけの制約を加えるのかは、提供される文化芸術によって影響すると思います。

	<p>交通の便を良くすることが、文化芸術の振興につながるというのは、いかがなものでしょうか。</p> <p>副会長</p> <p>それは、取り組む手法の問題だと思います。</p> <p>兵庫県立芸術文化センターや兵庫陶芸美術館については、県内だけでなく、県外にも情報発信ができる施設であることは事実であり、丹波市内からもオペラ鑑賞などに来館されています。</p> <p>それぞれの施設に役割があり、交通の便だけが問題ではないと思います。たとえば、ライフピアいちじまという施設には、ライフピアいちじまの役割があります。</p> <p>子どもたちが文化芸術を鑑賞する機会には、様々な提供方法があり、それを多面的に同時に取り組んでいくような手法の問題だと思っています。たとえば、私は植野記念美術館が好きで、行くことがあるのですが、兵庫県立美術館とは役割が異なります。</p> <p>それぞれが違う役割の中で、それぞれの独自の取り組みが何なのかを、今回の推進計画でみなさんと検討していきたいと思っています。</p>
<p>〇〇委員</p>	<p>美術館の話題が出ましたので、私からも、少しお話をさせていただきます。</p> <p>兵庫陶芸美術館においても、遠方から多くのお客様にご来館いただくことを考えております。同時に、近年は出前授業を行っております。</p> <p>伝統工芸士の方々にご協力いただいて、学校においてもものを作る、たとえば土をひねって轆轤（ろくろ）を使うなど、子どもたちの記憶に残るような活動を依頼し、小学校4年生が制作した作品を焼いて、子どもたちに返却する授業をしています。</p> <p>親子が一緒に参加しにくいということですが、子どもたちが通っている学校単位での取り組みができれば、お母さん方も参加してもらえるのではないかと考えています。</p> <p>この取り組みを広げていこうと考えており、現在は篠山市内を中心に活動していますが、県下の他市町へも何ヵ所か出前をしています。そのような取り組みを積み重ねることによって、焼き物について理解をしてもらえると考えています。その後の作業工程で言うと、登り窯で焼成を行うことによって、火を使用してものが作られるということを経験します。現在は、焚き火を自由に行うことができないので、自分で薪をくべることによって、火が大きくなって窯の温度が上昇するなどの経験を積むことができます。ただし、登り窯については陶芸美術館へ来てもらうしかないが、自分が作ったものが焼成されているということになれば、親子が一緒に陶芸美術館へお越しいただく契機になるのではないかと考えています。</p> <p>いずれにしても、短期間で成果が現れるものではなく、そのような取り組みを10年・20年と積み重ねることで、小学生の頃にここで自分の作品を焼成したとか、おじさんに教えてもらって、轆轤（ろくろ）を回していたら土が立ったなど、日常生活にはない経験を積み重ねることが、長い目で見れば、文化を育てることに繋がると考えています。伝統工芸士の方々も、子どもたちが感動することによって、自身の仕事に誇りを感じるようになるなど、身近なことを積み重ねていくことが一番いいと思いました。</p> <p>また、アンケート調査の結果を見ても、丹波市は歴史のあるまちであり、様々な活動をされているが、その活動が十分に市民へ伝わっていない、あるいは参加するにはどうすればいいのかということも含めて、もう少し、情報の共有や発信が上手くできればいいと思いました。参加する人は、気が向けば参加するし、面白ければ行くようになりま</p>

	<p>すが、そのような場がすでに結構あるのではないかと思います。</p> <p>最後に、指導者不足や支える人たちの高齢化については、どこの市でも抱えている問題ですが、やはり行政が指導者や支える人を応援することを一番に考えていく必要があると思います。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>はい、〇〇委員。お願いします。</p>
〇〇委員	<p>〇〇です。</p> <p>先ほど、植野記念美術館へ子どもたちを連れて行って、素晴らしい作品を鑑賞してもらおうというお話があり、とてもいい事だと思いました。</p> <p>最近、私自身が経験したことに関連して、質問させていただきます。</p> <p>一般的に、美術展などの見学では「しーっ、静かに！」と注意をされますが、植野記念美術館では子どもたちが見学する際に、作品の解説などをされているのでしょうか。</p> <p>いかに素晴らしい作品であっても、それが何であるかの解説をしなければ、子どもたちは素晴らしさを理解することができないのではないかと思います。</p> <p>我々の文化協会が開催する文化祭などにおいては、あまり話し声を気にせずに、どんどん説明するようにしています。</p> <p>先日、春日文化ホールで丹波市民美術展が開催されましたが、やはり、「静かに作品を鑑賞してください」とのお願いをされていました。</p>
会長	<p>〇〇委員、お願いします。</p>
〇〇委員	<p>学校から集団で子どもたちが来館した場合には、植野記念美術館の学芸員が説明をしています。やはり、説明を聞いて鑑賞すれば、作品をよく理解できます。しかし、子どもたちは触ることが好きなので、その点は注意をしています。</p> <p>フランスのルーブル美術館では、子どもたちが名画と一緒に泊るというイベントがあると聞いたことがあります。日本でも「静かに」ばかりだけではなく、もっと子どもたちにとって親しみやすい美術館を考えていく必要があると思っています。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>一般的には、日本の学芸員には堅いイメージがあります。ヨーロッパでは、子どもたちが名画の前で自由に絵を描くということが行われていますが、鑑賞者の迷惑になったことは無いと聞いており、とてもいい光景だと思います。</p> <p>そのあたりは、まだ日本は杓子定規なままのところがあると感じています。</p>
〇〇委員	<p>先ほどのルーブル美術館のお話ですが、ずっとやっていると一般の鑑賞者の迷惑となるので、子どもたちが名画の前で自由に絵を描いてもいい日、「今日はしゃべりましょう」という日も設けています。</p> <p>今回、我々が開催している展覧会では、作品を観た際には、横で「しっ」と言わずに、できるだけ感想を述べ合える展覧会にしようとしています。「うるさい」と言う来館者もいらっしやいますが、「今日は、そういう日なので、我慢してください」と、普段の</p>

<p>〇〇委員</p>	<p>展覧会とは正反対の願いをする日もあります。</p> <p>現在は、ケースバイケースで対応しており、以前に比べて緩やかになっているように思います。</p> <p>もう1つだけ、最近、良かったと思ったことですが、先日、丹波市の文化・スポーツ課の主催でテレマン室内オーケストラによる「ヴィヴァルディの四季」が開催され、子どもと一緒に鑑賞できる公演でした。指揮者の延原武春さんのユーモアのある素晴らしいトーク、子どもにもわかりやすい説明が、たいへん良かったと思いました。</p> <p>ありがとうございました。</p>
<p>会長</p>	<p>閉会の予定時刻が近づいていますので、もうお一方くらい、何かございませんか。</p> <p>はい、〇〇委員。</p>
<p>〇〇委員</p>	<p>〇〇です。先ほどの私の発言において、説明不足がありました。</p> <p>インフラ整備をしなければならないという話をしたつもりではなく、もっと気軽に芸術を鑑賞できる機会を増やすことができないかということを上げたかったのです。</p> <p>アンケート調査の「丹波市を文化芸術の盛んなまちだと思いますか」という設問に対して、「思う」と回答した30歳代は12.3%しかいません。ところが、毎週のように丹波の森公苑ホールやライフピアいちじま大ホールでは公演が催されており、植野記念美術館においても展覧会を開催しているにもかかわらず、文化芸術が盛んだとは思っていないのが現状です。</p> <p>また、各地域の文化協会もずっと活動されており、各地域や市でも文化祭を開催されているにもかかわらず、文化芸術が盛んだとは思わないのは、身近に感じていないことが原因だと思います。</p> <p>そこで、単にインフラを整備して、市内にバスをバンバン走らせればよいという話ではなく、自分の生活圏に絵画や写真が展示しているような機会をたくさん増やせないかということです。</p> <p>プロの素晴らしい作品ばかりではなくても構わないので、そこへ親子で鑑賞に行き、「この人は、絵が上手だね」のような会話が日常的になされるようになれば、少し興味のある作品展示や公演が開催される際には、鑑賞に出かけることにもつながっていくのではないかと考えています。</p> <p>そういう意味で、各住民センターの活用等をお話しました。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>住民センターのフレキシブルな活用がどれくらい可能なのかということと、全国で開催されているアートフェスティバルとの関連でお話すると、アートフェスティバルでは空き家を活用した展示や作品制作が行われています。</p> <p>そういったサイトスペシフィックな作品に空き家を活用することは、空き家の再利用だけでなく、地域の活性化にもつながり、また子どもたちにとって身近にアートに触れる機会にもなります。特に、地方に行くほど、現代アートに触れる機会は少なくなります。期間限定になるかもしれませんが、アートプロジェクトのような形で、現代アーティストが地方を訪れて、その地域の資源と結び付けながら作品を制作していくというこ</p>

	<p>とが、すごく重要な経験となっていくので、そういう方向も検討していけば面白いと思います。</p>
	<p><b>4 今後の予定について</b></p>
会長	<p>閉会の予定時刻が迫っておりますので、事務局から「今後の予定」をお願いします。</p>
事務局 (課長)	<p>それでは、次第の4番「今後の予定」をご覧ください。</p> <p>第4回・第5回の審議会につきましては、平成31年7月と、9月頃の開催を予定しております。</p> <p>内容につきましては、計画の素案等の審議やプロモーションビデオの試写会でございます。編集途中のプロモーションビデオを見ていただき、ご意見を頂戴したいと考えております。</p> <p>場所を春日文化ホールとしておりますのは、試写会のためでございます。</p> <p>また、10月19日（土）には、「丹波市文化芸術推進に係るシンポジウム」の開催を考えております。内容につきましては、今後、委員の皆さまのご意見を伺いながら進めていきたいと考えております。</p> <p>委員の皆さまにおかれましては、10月19日（土）をご予定くださいますよう、よろしく願いいたします。</p> <p>ここで、会長に7月の第4回審議会と9月の第5回審議会の日程調整をお世話になりたいと思いますので、よろしくをお願いします。</p> <p>以上でございます。</p>
会長	<p>それでは、7月の第4回と9月の第5回審議会の開催日につきまして、委員の皆さまの挙手が多い日に決定させていただきたいと思います。</p>
事務局 (課長)	<p>順に候補日を申し上げますので、ご都合の良い日に挙手をお願いします。両日ともにご都合が良い場合は、両日ともに挙手ください。</p> <p>第4回審議会 7月24日（水）・・・7人 25日（木）・・・6人</p> <p>では、<b>第4回審議会は、7月24日（水）</b>に開催させていただきます。</p> <p>第5回審議会 9月27日（金）・・・8人 10月2日（水）・・・5人</p> <p>では、<b>第5回審議会は、9月27日（金）</b>に開催させていただきます。</p> <p>委員の皆さまにおかれましては、お忙しいとは存じますが、よろしく願いいたします。</p>
会長	<p>はい。第4回審議会が7月24日（水）、第5回審議会が9月27日（金）の開催となりました。</p>
事務局 (課長)	<p>いずれの審議会につきましても、後日、事務局から委員の皆さまにご通知をさせていただきます。</p>



会長	<p>ありがとうございました。</p>
会長	<p><b>5 その他</b></p> <p>それでは、次第の5番「その他」に移ります。 何かご発言がございましたら、お願いします。</p>
会長	<p><b>6 閉会</b></p> <p>ご発言が無いようですので、「閉会」にあたりまして、〇〇副会長から閉会のごあいさつを頂きたいと思います。</p>
副会長	<p>本日は、皆さまお疲れ様でした。</p> <p>私事ですが、先日、植野記念美術館で「川端謹次展（後期展）」を拝見しました。 川端謹次氏は丹波市出身で、神戸市の長田高校で教師をされていて、神戸の風景画が多いのですが、柏原藩陣屋跡の絵などもあり、地元の風景も描かれています。まちの誇りであり、大好きな画家です。</p> <p>先ほど、会長からもお話がありましたが、これだけの量のアンケートをきちっとした形で分析までされていて、すばらしいアンケート調査の結果報告だったと思います。どうしても、このような文化芸術の振興計画などにおいて、他市の場合では、それぞれの実情を踏まえながらも、言い方は悪いですが“金太郎飴になりがち”なことが多いです。</p> <p>しかし、丹波市の場合は、市職員の方々のご努力により、いい形で施策体系表を作られていると思います。</p> <p>主体別に分類した「基本目標」を軸にして整備されており、おもしろい視点だと思いました。次の議論になっていくと思いますが、4つの主体別の「基本目標」の上に、さらに「本計画のポイント」があり、その中に2つの柱が掲げられています。</p> <p>1つ目の柱は、「子どもたちに対する文化芸術に触れる機会の充実を図る」です。市民へのアンケート調査結果において、「子どもの頃から質の高い文化芸術に触れる機会が必要だと思う」が82.6%にもかかわらず、実際には15.9%しか「子どもの文化芸術に触れる機会が充実している」と思っていない。これが実情だと思います。</p> <p>2つ目の柱は、「旧6町のそれぞれに文化的資源がある。しかし、これを丹波市として1つに括ることは難しいかもしれないが、丹波市には文化的資源があるという事実をひとつひとつ大事にしていこうね」というものです。</p> <p>この2つの柱を大きくフォーカスされていて、非常に良い整理の仕方だと思います。</p> <p>次回以降の審議会では、それぞれの基本方針を皆さまと整理して、その基本方針にぶら下がる施策をどうしていこうということを具体的に検討しながら、基本計画が出来上がっていく。その上に、どのような基本理念を掲げようか、というような順序になっていくと思いますので、引き続き、これからの審議会でも、皆さまの活発なご発言をお願いします。</p> <p>本日は、ありがとうございました。</p>